

Tobu通信

鳥取県教育委員会事務局
東部教育局
〒680-0846鳥取市扇町21番地
東教発 H25.3.1 No.118
<http://www.pref.tottori.lg.jp/t-kyoiku/>

「鳥取市立千代南中学校」開校に向けて

平成25年4月、佐治中学校と用瀬中学校が統合し、新しく千代南中学校が誕生します。校訓「志高く共に高まる」や校章が決定されました。佐治中学校・用瀬中学校それぞれの歴史や伝統を大切にしつつ、学校と地域がしっかりつながった、生徒が地域を誇りに思える学校づくりがすでに始まっています。

《統合に向けた取組（交流行事等）》

両校の校章をモチーフにして融合し、新たに生まれる「千代南中学校」と周囲の自然・風土がイメージされています。豊かな自然に抱かれた環境の中で、夢や希望に向かってたくましく成長する生徒と学校の姿が表現されています。



仲間づくりに向けて

- ◆全校交流（5/2）
みんなでジャンプ！
- ◆1年生：大山登山（5/24・25）
合同で登山や座禅体験

共に高め合う学習集団

- ◆2年生：鳥取大学訪問（8/1）
合同で訪問（進路学習）
- ◆1・2年生：合同授業（12/17）
数学や英語で実施

保護者と共に

- ◆指定持ち物の決定（鞆など） 両校の保護者を中心とした校務委員会で検討
- ◆支援組織結成（1月） 両地域・両校PTAによる組織で学校を支援（部活動など）

佐治中

《千代南中学校の開校に向けての思いや構想を両校長先生に伺いました。》

用瀬中



「故郷に対する愛着と誇りを！」

今の時代、生徒が活躍するフィールドは、鳥取だけでなく、広く全国、世界へと広がっていくでしょう。この度の統合を生徒の自立のためのステップとして前向きに捉えていきたいと考えます。新しい環境に適応できる力の基礎となるものは、故郷に対する愛着と誇りであると思います。故郷のことを知り、故郷の願いを感じ、故郷のことを自信をもって語り、自らの歩みを肯定的に捉え、新しいものに立ち向かってほしいと思います。

「学校・家庭・地域の連携を！」

千代南中学校が「“学校が楽しい・授業がよくわかる・みんなと活動するのが楽しい”が実感できる学校」となればと思います。よい学校とは、「一生懸命学び、向上しようと努力する生徒がいる」「その生徒のために頑張る先生がいる」「学校の教育活動に協力してくださる家庭・地域がある」の3つがそろふことだと考えます。学校・家庭・地域が連携を密にし、子育ての共有ができる学校になることを願っています。



千代南中学校は、鳥取市の「小中一貫教育推進プラン」と文部科学省の「魅力ある学校づくり」の考え方をベースに、学校が主体となって地域をリードする「鳥取型の地域の学校づくり」をめざしています。両校の今年度の取組は、学校づくりの営みそのものです。子ども、保護者、地域、教職員の協働によって学校づくりは進んでいきます。

教師としての志

局長 久岡賀代子

今年度は、学習指導要領のめざす方向に向かって、教科等の指導の原点に立ち返り、授業を「変える」という思いをもって丁寧に取り組まれた授業研究が多くありました。自校の学力観を問い直すなど、まさに原点を大切にされた確かな教育実践にも接することができました。

一方、聖域のように思われてきた学校の安心・安全についての価値観が大きく揺らいでいる状況において、学校の安心・安全を今一度問い直すことが私たちに求められているのも事実です。

3月は惜別の月です。私たちは、縁あって子どもたちとめぐりあい、担任となったり、部活動の顧問になったりと様々ななかかわりをもっていきます。

「教育は子どもを中心にしていくもの」このことを心に刻みつつ、今年度最後の月に、教師が凜として子どもの前に立ち『志』をもって教育することで子どもたちは背筋を伸ばし、前を向いて来年度に意欲をもって向かっていくでしょう。

子どもたちに教師の『志』のある生き方を示すことで、日本を元気にする礎を築き、さらに安心・安全な学校をめざしましょう。

めぐりあいの
めぐりあいの
ふしぎに
てをあわせよう

坂村 真民

「学校管理職危機管理演習」(2/4)

近年、経験したことのない災害や学校での事故など、学校における有事の対応や平常時の予防活動といった危機管理の重要性が高まっています。『NKS J リスクマネジメント』より講師を招き標記の会を開催しました。

I. リスクマネジメントの現状の問題点は

- 組織の各分掌が個々に、断片的にリスクに対応している場合が多くあること
- リスクが発生してから、対応していること
- 多種のリスクに対応するために、対応方法などが複雑になっている場合があること

II. 有事対応のための「危機管理」

～適切な情報開示と組織の信頼確保のために～
危機管理の目的は、「安全・安心」「組織の信頼」「組織の活動」を守ることである。危機そのものへの迅速な措置はもちろんのこと、加えて「情報開示・発信」の二つの対応が必要となる。

【ポイント】『初動対応が重要』

- ・危機を危機と認識できる感性が必要
- ・一刻も早い情報の共有化
- ・最悪の事態を想定した思考
- ・先を読み、先手を打つ
- ・情報開示ではぶれない説明と誠意あるメッセージ
- ・管理職のリーダーシップ

III. 平常時からのリスク対策を

- 事故・事件を起こさないために「自校でも起こる」との前提で、しっかりとした予防活動が大切である。
- 良好なリスクマネジメント水準を（一時的な向上だけでなく、）維持・継続できる組織づくり
 - 大震災を教訓にした防災対策の見直し



【感想から】

- ・記者会見の模擬体験を行ったが、こうならないように平常時の危機管理に努めたい。
- ・信頼を守るために、苦しいことだがあえてそれをオープンにし、誠実に対応したい。

小さなリスクを発見したときにも、まず、間をおかずに適切に措置することが大切です。さらに、教職員全体で共有化することが大切であり、ひいてはリスクに対する組織の力を強めることにつながります。（ピンチをチャンスに変える）

「今、授業で大切にしたいポイント」

～キーワード「**すべ(術)**」を身に付けさせる～

【基礎的・基本的な知識や技能習得過程で獲得させたいことは】

- 自分で目標を設定し、計画、実行し、活動を振り返るといった力の育成
- 規則正しい生活リズム（生活・学習習慣）
- やればできるという自信と有能感の獲得
- ★「今までは『早くたくさん』であったが、これからは、やればできるという気持ちを感じさせることと、自分なりの学び方・覚え方や自分のよさを生かす生き方を身に付けさせること。」

【学習意欲の向上のために教師は】

- 子どもに『すべ』を身に付けさせる
- 人から学ぶ（学び合う）学級風土を作っていく
- ★「友達には自分にはない思いや考えがある。友達のよい点を真似る。真似たよい点を自分なりに工夫する。他者と関わることで意欲が向上する。」



午後、「学びの質を高める授業改革」をテーマにパネルディスカッションが行われました。北中学校の神波徹先生からは、「自ら考え表現し、楽しく学び合う授業」をめざし中学校区が連携した実践をご発表いただきました。

「鳥取県教育研究大会」(2/7)

「これからの時代を生きる子どもたちに身に付けさせたい学力」
国立教育政策研究所教育課程研究センター
基礎研究部長 角屋重樹先生の講演より

【能力（思考力・判断力・表現力）の育成とは】

- 思考力を育てる『すべ』⇒考え方を知る
 - ・考え方とは「比べる、分類する、違いを見つける、関係付ける、既習事項を思い出す」こと
- 判断力を育てる『すべ』⇒目的を意識化する
 - ・何のための学習なのか明確に意識させる。
 - ・目的のもとに適切な情報を選択させる。
- 表現力を育てる『すべ』⇒目的をもちの確に
 - ・体験活動は、まず、目的をもってさせる。
 - ・相手、目的に応じた表現を的確にさせる。
- ★「今まで、よく考えてごらんと問いかけていたが、どう考えるのかという『すべ』をあまり教えてこなかったのではないかと。どのように思考させたり表現させたりするのかを学ばせることが必要である。」（汎用的能力の育成）
- ◇教師の声かけの例：「比べてごらん」（思考力）
「何がしたいの？」（判断力）
「どんな実験をして、結果がどうだったから、そう考えたの？」（論理的思考力）

子どもが主体の授業は、子ども任せにするのでなく、「教師が仕組む」ことが必要です。児童生徒が授業の中で学び方を体得していけるように、つけた『力』に焦点を当てた授業づくりが求められます。



子どもを育てる「ねらい」を 学校・家庭・地域が共有し、役割を果たす

今年度開催された中部地区生涯学習実践研究交流会で、文部科学省初等中等教育局コミュニティスクールマイスターでもある福岡県東明館小学校の今村隆信校長先生は、ご自身の経験を交えながら学校教育と社会教育の連携の必要性をアピールされました。講演では、「子どもたちの生きる力をどう育てていくか。今や『地域で子どもを育てましょう』ではなく、『地域で子どもを鍛えましょう』という意識で子どもにかかわっていかないといけない。」等の内容でした。子どもたちに求められている「生きる力」を身につけさせるためのポイントを鳥取県内の事例と合わせて紹介します。

学校・家庭・地域の連働 ※連働とは…同じ目的のために対等の立場で協力して働くこと

☆学校と家庭ですること（2者の連働）

例：PTA活動

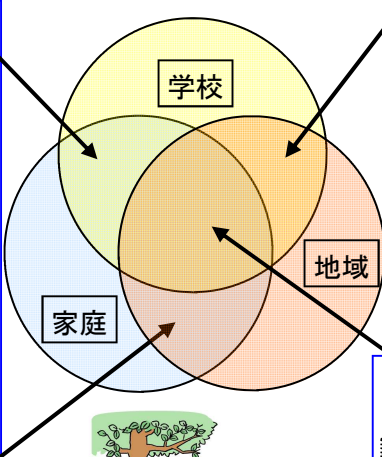
- ・ 親子会、資源回収など

例：よりよい生活習慣づくり

- ・ 早寝早起き、朝ごはん、歯みがき、お手伝い、家庭学習、読書、テレビやゲームとのつき合い方など

◎成功のポイント

- ・ 親子でしっかりと話し合って計画を立てる。取り組む際に大人の過剰な応援は禁物、しっかり見守り適宜支援する。



☆学校と地域ですること（2者の連働）

例：学校と地域の共催事業

- ・ 伝統芸能等の指導(クラブ活動)
- ・ 学校支援ボランティア
- ・ 放課後子ども支援など

◎成功のポイント

- ・ 日頃からのかかわりを大事にし、地域の方が学校に来やすい環境づくりが心がる。

☆学校・家庭・地域ですること（3者の連働）

例：学校・家庭・地域の共催事業

- ・ 通学合宿、運動会、公民館祭など

◎成功のポイント

- ・ 3者の信頼関係を築き、スムーズな取組ができるように連携を密にとる。

☆家庭と地域ですること（2者の連働）

例：公民館や町内会、子ども会の行事

- ・ 子どもが参加できる公民館の講座、スポーツイベント
- ・ 資源回収、防災訓練、納涼祭など

◎成功のポイント

- ・ 子どもを事業の計画段階から参加させ、子どもにできる役割を与えて地域(大人)は活動を支援する。



子どもたちが自分で考え、行動できる大人に成長するように、学校や家庭や地域で、大人と子どもの学びの場を意図的に仕組むことが大切です。普段から3者がコミュニケーションをとり、話しやすい関係づくりを進めることでねらいの共有が可能となります。

東部教育局はしばらく引っ越します

県民ふれあい会館の耐震化工事のため、東部教育局は下記の通り引っ越しをします。

場所：鳥取県東部総合事務所 4階
 <<〒680-0061 鳥取市立川町6丁目176>>

期間：平成25年4月20日～
 平成26年1月下旬（予定）



☆電話・FAX番号は変更ありません。

TEL 学事係 0857-22-1600・1601
 学校教育係 0857-22-1602・1603
 社会教育担当 0857-22-1604

FAX 0857-22-1607

駐車場も併設されています。ご利用下さい。

しばらくご迷惑をおかけしますが、
よろしくお願ひいたします。